

千葉市の教育に関する大綱

○幼保小「連携」から「接続」への発展について

・幼児期と児童期の教育の円滑な接続の重要性から実施してきた「幼保小連携」の取組みについて、子育て部門と教育委員会の連携を進め、一層の円滑な「接続」と体系的かつ組織的な教育のための取組みを進めます。

学習指導要領の改訂 ～幼保小連携・接続の重要性の高まり～

○29年3月に10年ぶりに改訂される学習指導要領においては、幼児教育と小学校教育の接続、とりわけ教育課程の接続がより一層重視される。（幼稚園教育要領等はH30.4、小学校学習指導要領はH32.4より全面实施）

<中央教育審議会答申（H28.12）より抜粋>

- 小学校低学年は、学びがゼロからスタートするわけではなく、幼児教育で身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、子供たちの資質・能力を伸ばしていく時期である。
- 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る観点から、5歳児修了時までには育てほしい具体的な姿について10項目に整理した「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を幼稚園教育要領等に新たに位置付ける。
- 小学校教育においては、生活科を中心としたスタートカリキュラムを学習指導要領に明確に位置付け、その中で、合科的・関連的な指導や短時間での学習などを含む授業時間や指導の工夫、環境構成等の工夫も行いながら、幼児期に総合的に育まれた資質・能力や、子供たちの成長を、各教科等の特質に応じた学びにつなげていくことが求められる。

28年度の取組み

<教育委員会>

「幼・保・小関連教育推進協議会(S63設置)」における取組み

- 教育委員会、こども未来局、私立幼稚園、民間保育園による協議会において、幼保小の教職員の相互理解や子ども同士の交流活動等について協議。
- 「推進指定校」(各区2校・全12校)と近隣の幼稚園・保育所・認定こども園との交流活動を実施。
- 交流活動の内容を報告書にまとめ、キャビネットで配信。指定校以外の小学校への普及を図る。



連携

<こども未来局>

「幼保小連携・接続検討会議」の設置(H28.3)

- 私立幼稚園、民間保育園、有識者、教育委員会、こども未来局による検討会議を設置し、幼保小連携・接続の強化のための具体的な施策について協議。

「実態調査」の実施(H28.7~9)

- 本市における幼保小連携・接続の現状と課題を把握するため、市内の全幼稚園・保育所・認定こども園及び全市立小学校を対象としたアンケート調査を実施。

「千葉市幼児教育シンポジウム」の開催(H28.12.10)

- 幼保小連携・接続の重要性や幼児教育の意義を再確認し、関係機関が一致協力して今後の取組みを進めて行く機運を醸成するため、幼稚園協会及び民間保育園協議会との共催によるシンポジウムを開催。

現状と課題(実態調査より)

	現状	課題
子どもを中心とした交流活動	<ul style="list-style-type: none"> 多くの幼・保と小学校の間で交流活動が実施されており、今後の実施ニーズも高い。 新設民間保育園では、交流の機会が得にくい。 園児の入学に向けた期待や興味・関心の高揚、小学生の年長者としての自覚や意識向上に寄与。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼保と小学校における互恵性の向上。 新設民間保育園も可能な限り機会を得られる方法の検討。
教職員同士の連携活動	<ul style="list-style-type: none"> 相互の教育・保育や生活に対する理解を深めるための活動はあまり普及していないが、そうした活動に対するニーズが高い。 さらに、接続期カリキュラムに関する意見交換に対するニーズも高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児教育と小学校教育の接続強化を目的とした連携活動の普及と定着化 幼保小間の「学び合いの場」(相互参観、意見交換、合同研修等)の充実
幼児教育と小学校教育の接続	<ul style="list-style-type: none"> 幼保においても小学校においても、円滑な接続を意図した様々な取組みが行われている。 入学時点の子どもの姿に小学校が様々な課題を感じているが、幼保と課題認識を共有できていない。 一部の園・校を除き、接続期のカリキュラムに対する意識が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 卒園(入学)時点の子どもの姿に対する認識を、幼保小間で共有。 幼保及び小学校が円滑な接続のための取組みを意図的・計画的に実施できるように、接続期カリキュラムを普及。

29年度の取組み


<教育委員会>

「幼・保・小関連教育推進協議会」における取組みの充実

- 28年度を取組みを継続しつつ、幼保小の教職員同士の「学び合いの場」（相互参観、意見交換等）のより一層の充実と、子どもを中心とした交流活動の定着化・活性化を図る。

各学校における「スタートカリキュラム」の作成・改善

- 全小学校でスタートカリキュラムを作成するとともに、各教科主任研修会等を通じてその改善を図る。



より一層
連携を強化

<こども未来局>

「幼保小連携・接続検討会議」における具体的施策の検討

「アプローチカリキュラム」の作成・普及

- 「モデル実施園」を設定し、5歳児後半に小学校教育への接続を意識して実施する「アプローチカリキュラム」を作成・実践するとともに、本市の「モデルカリキュラム」を作成し、モデル実施園における成果と併せ、その普及を図る。
- 「（仮称）幼児教育アドバイザー」を試行実施し、モデル実施園におけるカリキュラム作成・実践等を支援する。

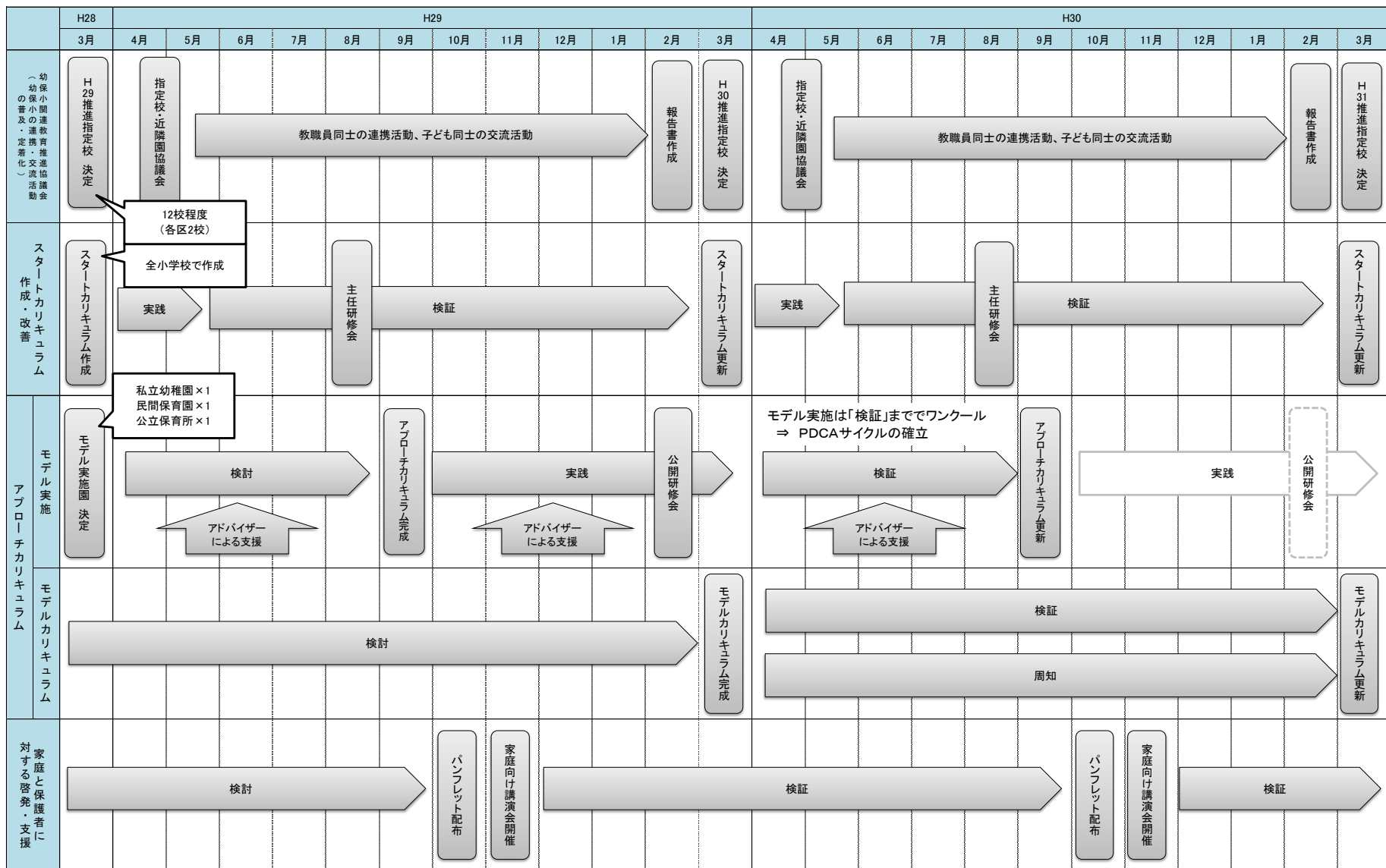
幼保小の連携・交流活動の普及・定着化

- 教育委員会における取組みと連携し、幼保小の教職員同士の「学び合いの場」の充実や、子どもを中心とした交流活動の定着化・活性化を図る。

家庭と保護者に対する啓発・支援

- 5歳児の保護者に対し、幼児教育における家庭と保護者の役割、小学校入学に向けて家庭生活上で留意すべき事項等に関するパンフレットの配布や講演会の開催等の啓発・支援を行う。

29～30年度の工程(イメージ)



カリキュラムによる接続のイメージ

- 幼児教育(学びの芽生え)と小学校教育(自覚的な学び)を、カリキュラムでつなぐ

